

第2回 横浜市救急医療センター指定管理者選定評価委員会会議録	
日 時	平成 26 年 10 月 16 日 (木) 午後 5 時
開 催 場 所	市庁舎 7 階 7 A 会議室
出 席 者	遠藤委員、恩田委員、河原委員、林委員
欠 席 者	おち委員
開 催 形 態	一部非公開 (傍聴者 0 人)
議 題	1 応募団体によるプレゼンテーション及びヒアリング 2 指定候補者の審査及び採点 3 指定候補者の選定・総評
決 定 事 項	1 事前の書類審査、プレゼンテーション及びヒアリング (質疑応答) の結果に基づき審査を行い、最低基準を満たしていること、著しく低い点数がないことを確認し、横浜市医師会を指定候補者として選定した。 2 選定結果報告書は、委員長が事務局案を確認の上、確定することとした。
資料・特記事項	1 資料 (1) タイムスケジュール (2) 横浜市救急医療センター指定管理者選定評価委員会審査報告書 (案) (3) 選定のスケジュール 2 特記事項 なし

事務局からの説明等

1 第2回選定評価委員会の進め方について

・タイムスケジュール(資料1)、会議の公開・非公開(第1回選定評価委員会の決定事項)、審査・選定方法について事務局が説明した。

議事・質疑要旨

1 応募団体によるプレゼンテーション及びヒアリング

・応募団体である横浜市医師会が、提案内容についてプレゼンテーションを行い、その後、ヒアリングを行った。

<ヒアリング>

(遠藤委員)

・事業計画書(様式2)の1ページの「(2)財務状況」にある「当期経常増減額」の決算額が平成25年度は大幅に減少しているが、どのような理由か。

(応募団体)

・夜間急病センターの患者数が約2,100人減少したことや、20年国債で運用している健康福祉基金の2億円の評価益が1,400万円減少したこと、菊名看護専門学校の改築による経費と減価償却費が増えたことによるもの。

(遠藤委員)

・資産の運用については、国債などの安全性の高いもので運用し、株式や外国債などは扱わないといった運営のルールを定めているか。

(応募団体)

・運用の規定はないが、過去には国債しか扱ってきていない。

(遠藤委員)

・平成25年度の決算書の4～5ページにある「正味財産増減計算書内訳書」の「地域の医療及び福祉の向上を図る事業」は、どのような事業か。

(応募団体)

・学術や地域医療などで11に区分しており、一般市民向けの公益事業として実施しているもの。収入は補助金で賄われている。

(遠藤委員)

・同ページにある「その他」の収支がマイナスになっているが、どのような事業か。

(応募団体)

・医師会会員のための事業であり、神奈川県との調整により「その他」として区分している。主には医師会報の印刷費や医師会内部の情報システムの費用となっている。

(遠藤委員)

・会員のための活動であるならば、会員からの会費で賄えないのか。

(応募団体)

・会員の会費は法人会計に移しているため、大枠で考えれば会費で賄えていると言える。

(遠藤委員)

・「財産目録」の未収金について、法人会計として未収入金が1億円以上あるが、内容はどのようなものか。回収が難しくなっているような性質のものが含まれているのか。また、保土谷看護専門学校についても約2,600万円が未収金として計上しているが、内容はどのようなものか。

(応募団体)

・法人会計の未収金については、予防接種や健診を行った際に横浜市からの委託料が2、3か月程度遅れて入ってくるため、それが大半を占めている。また、保土谷看護専門学校は、人件費に対し、横浜市から補助金を受けており、年度を跨いで支払われた分の補助金を未収金として計上している。

(遠藤委員)

・退職給付引当金があるが、全て定期預金で積み立てられているのか。

(応募団体)

・普通預金と定期預金で積み立てており、運用等はしていない。また、役員や職員でそれぞれ分けて積立てを行っている。

(恩田委員)

・事業計画書(様式2)の3ページに患者のニーズへの対応、8ページに利用者の意見への対応についての記載があるが、現在の救急医療センターのホームページを見ると、「患者からの声」は2011年10月以降掲載されていない。透明性という観点からは、年毎ぐらいにはアップされているとよいのではないか。

(応募団体)

・開設当初は患者様から多くの声をいただいていたが、現在は件数が少なくなっており、集計するほどの件数ではない状況にある。また、これまでいただいた意見に対しては、例えば薬局の待ち時間を解消するなど、改善している部分もあり、市民からの意見が少なくなっているものもある。

(恩田委員)

・市民目線で考えたときには、意見を受けて改善したことや、少ない意見であったとしても集計し、公開するようにして欲しい。また、ホームページの更新も頻度を高めるとよい。

(応募団体)

・患者様からいただいている意見に対しては、例えば医師の対応が悪いといった場合には、個々に連絡をするなど、解決、改善してきている。

(恩田委員)

・看護職の人材の確保、育成、定着に関して、具体的な取組はあるか。また、事故防止の取組についてもオープンにしていくとよいのではないか。

(応募団体)

・看護師の雇用には苦勞している。常勤に関しては、一般の病院勤務に比べると大変な環境にあるので、場合によっては他の夜間急病センターと配置転換を行い、環境を変えるなどの工夫をしている。

(恩田委員)

・勤続年数により、給与体系や待遇が変わるということはあるか。

(応募団体)

・定期昇給はあるが、5年から10年になることによる見直しは今のところ検討していない。また、事故防止への取組については、内部での情報共有をしっかりと行い、注意喚起をしている。

(林委員)

・初期救急に関しては、4時間という短い時間の中で多くの患者を診るうえで、患者が一時的に集中することもあると思うが、その場合には、危険な患者をいち早く見つけることが大

切になってくる。その中で、院内におけるトリアージという観点で何か取組をしているか。また、救急医療情報センターについて、総務省が3月末に公表しているコールトリアージを取り入れることなどは検討しているか。

(応募団体)

・救急車により搬送されてくる患者については、受付の段階で看護師が状況を確認し、すぐに対応が必要であれば、優先して診ることを従来から行っている。

(林委員)

・救急患者は容態が急変することがある。救急車で搬送される方は、消防局のコールトリアージと、救急隊におけるフィールドトリアージがかかっている。総務省が作成しているものを参考にしながら急病センター内の安全確保に努めてもらいたい。

(応募団体)

・研修で取り入れるなど、検討していきたい。

2 指定候補者の審査及び採点

・遠藤委員から財務・経営面での評価について報告した。

資金として流動的なものをもっており、短期の支払い能力についても不安はないので、財政状態はよいといえる。基金の運用による評価損については、毎年の洗い替えの中での計算上の損なので、大きな問題ではないが、運用方針としての規定がない点は留意する必要がある。

全体としては、施設の運営に支障が出るような状態にはなく、健全な状態にあるといえる。

<プレゼンテーション・ヒアリングについての意見交換>

(恩田委員)

・ホームページについては、改善が必要。指定期間が10年になるからこそ、PDCAサイクルをしっかりと行っていき、情報公開についてもきっちりと行ってほしい。

(林委員)

・実績もあり、十分な運営を行っているといえる。難しいとは思いますが、10年間でどのように市民のために発展していくのかが、もう少し表現できていればよかった。しかしながら、運営できる団体は横浜市医師会以外にはなく、また、現在においても堅実に運営を行っている。

3 指定候補者の選定・総評

<選定>

・事務局より各委員が採点した評価シートの集計結果について報告。最低基準を満たしていること、著しく低い点数がないことを確認し、横浜市医師会を指定候補者として選定した。

・事務局から審査結果報告書(案)(資料2)について説明した。

・審査結果報告書については、委員の意見を事務局でまとめ、河原委員長に確認し、確定することとした。

<総評についての意見交換>

(河原委員)

・耳鼻科、眼科の診療科目を行っている点は、市民ニーズに応えており、他にない特徴といえる。医師会の公益性を活かし、事業を行っているといえる。

(恩田委員)

・指定期間が10年間になり、勤務形態からしても看護職の定着は課題になってくるので、人材の育成や定着の観点からは、研修の充実や研修をしやすい体制をつくる必要がある。

(恩田委員)

・市民の目線での情報開示や透明性という点ではアピールが必要。初期救急における事故事例もあるので、内部のみでの事例の共有に留めることなく、市民に対して公開することにより、安心・安全な気持ちで市民が利用できるようなしくみを作ってほしい。ホームページについても改善が必要。

(林委員)

・初期救急は、患者数が非常に多いので、効率よく対応することが必要。初期救急の医療機関として、病院前医療すなわち（横浜市の）メディカルコントロールにも関与してほしい。横浜市メディカルコントロール協議会には横浜市医師会の医師も入っているので、初期救急の医療機関として、今後連携を図ってほしい。

・眼科、耳鼻科の診療科目がある点、場合によっては、救急搬送も受けている点は評価できる。

4 その他

・指定管理者の指定までのスケジュール（資料3）について事務局より説明した。